

YCU 夏季短期語学研修 派遣学生報告書

氏名	K.M.	学部・学科	国際教養学部
学年	2年	派遣国	アメリカ
派遣大学	サンディエゴ州立大学		
プログラム名	Intensive English for Communication		
期間	2024年 8月 15日～ 2024年 9月 13日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

1週間のうちに7つのクラスがあり、それぞれで異なる内容の授業が行われた。月曜日と水曜日の1限目はアメリカの文化と語彙・発音の授業だった。この授業では前半の2週間は発音の授業で、後半はアメリカの文化について書かれているテキストを通して学習した。授業では主にリーディング、語彙、要約に取り組み、課題についても授業の延長線上で内容は同様だった。2限目はスピーキング・リスニングの授業で主にスピーキングに重点が置かれているように感じた。この授業には課題とテストは無かった。3限目はライティングの授業で、メールの書き方や文章を書くときの構造について学んだ。火曜日と木曜日の1限目はプレゼンテーションの授業だった。効果的な話し方や、プレゼンテーションで使うとよい語彙などを学びました。授業の中では大きく分けて2回プレゼンを行った。どちらもパワーポイントなどは使用せずスピーチ形式のものだった。プレゼンの準備が課題とされることが多く、評価もプレゼンを通して行われた。2限目は文法の授業で、現在完了形と現在完了進行形を学んだ。課題は授業で扱ったテキストから出されることが多かった。3限目はリーディングの授業で、授業内容と課題については月曜日と水曜日の1限の授業と同様だった。金曜日の授業はアクティビティの授業で、1ヶ月を通して調理がテーマだった。授業では調理に関する単語を使ったゲームをしたり、最終週には実際にカップケーキを作ったりとクラスのメンバーと協力して活動した。この授業には課題とテストはなかった。どの授業も自分のレベルに合っており、おおよそ理解できていると感じた。一番印象に残ったクラスはアメリカの文化についての授業だ。授業で国の文化について扱っているのでも、授業中のディスカッションもおおのずと留学生同士の国の文化の話になり、アメリカのみならずいろんな国の文化を学ぶきっかけになったと思う。様々な授業を通して、ディスカッションがあるクラスのほうが英語を使う機会があるのでよいと思った。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

(1) で前述したように、一週間のうちに様々な種類の授業を受けることができたので、それぞれの分野で知識を得ることができたと感じました。例えば、アメリカ文化の授業では、アメリカが自由の国と呼ばれる理由を知りました。そして、そこで学んだアメリカの個人主義は実際に現地で実感することもでき、より深い学びにつながったのではないかと感じました。ライティングの授業では今まで文章を書く際に意識していなかったことを多く学び、より文章を書きやすくなったのではないかと感じた。文法の授業では、先生がとてもわかりやすい方だったので、専門的な用語も出てきてはいたものの、理解にはさほど苦しまなかった。リーディングの授業とアメリカ文化の授業の先生は同じだったのですが、こちらの先生も大変わかりやすく、文章中に知らない語彙も多く見られましたが、わかりやすく説明してくださったので楽しく学ぶことができました。アクティビティの授業については、日常生活でよく使うフレーズを繰り返し練習する機会があったので頭の中に構文が定着し、実際に使用することができた際にはとてもうれしかった。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、自分が参加する予定の授業がどのようなシステムなのか、どんな内容を扱っているのかについての情報が全くなかったことと、自分がどのレベルにいるのかや、周りの留学生のレベルについていけるかがわからなかったため、不安が大きかった。授業を受けるにつれて、授業のレベルが自分に合っており、周りの学生も同じくらいのレベルだったので、コミュニケーションがとりやすく、お互いの国の文化についても話すことができとても有意義な時間を過ごせたと感じた。ディスカッションが多く行われていたため、自分の意見を英語で発信することができて、英語を学ぶ楽しさを改めて実感できた。留学前は 1 ヶ月でも長く感じていたのにもかかわらず、プログラムが終了するころには、もっと SDSU で学びたいと感じるようになっていた。日本では味わえない異文化交流を経験できたことはとても嬉しかったし、留学ならではの経験ができました。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

私は海外に行ったことがなく、初めての海外がこの 1 ヶ月の留学ということだったので、不安はとても大きかった。しかし、この一ヶ月は大変充実しており、もっと英語を学びたい、もっと英語を話せるようになりたいという気持ちが大きくなった。もう留学はできないかもしれないが、自分の将来を考えた時に、今までは日本のみで考えていたが海外での就職も考えてみようというふうに変化した。正直なところ、英語を学びに行くには 1 ヶ月では足りないと思う。現地でこの学びを続けていかないと英語力は伸びないと感じたが、今回の経験を通して英語を学ぶ意欲が高まったので、学んだことを忘れないうちに後期からの授業ではアメリカ社会についての授業や英語で開講されている授業にも参加してみようと思う。

YCU 夏季短期語学研修 派遣学生報告書

氏名	M.K.	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学年	1年	派遣国	アメリカ合衆国
派遣大学	サンディエゴ州立大学		
プログラム名	夏季短期語学研修		
期間	2024年8月14日～2024年9月16日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は月曜日から木曜日まで毎日75分×3時間受け、金曜日は2時間程度のアクティビティのクラスがあった。アクティビティのクラス以外には「US Culture, Vocabulary, & Pronunciation」、「Listening & Speaking」、「Writing」、「Communication Practice」、「Grammar」、「Reading」の6つの授業があり、それぞれの授業を週2時間受けた。「Communication Practice」特に印象に残った授業は2つある。

まず、「US Culture, Vocabulary, & Pronunciation」では、最初の1週間は発音の授業で、グループごとにWの発音の練習をしたり、同じアルファベットでも単語による発音の違いなどを勉強したりした。日常の中でも、自分の発音では相手に伝わらないことが何度かあったため、このような細かい発音の違いを学ぶことは重要だと思った。その後はアメリカの文化に関する文章を学んだ。グループごとに1パラグラフずつ読み合い、分からない単語を共有して、その後そのパラグラフの要約を考えた。この授業では、単語力や要約力を鍛えられた上に、アメリカ人が持つ価値観を歴史的背景から学ぶことが出来たため、非常に面白い授業だった。

「Communication Practice」では、英語を話すことメインにした授業が行われた。英語でのグループプレゼンが2回あり、チームごとに構成や内容を話し合っていた。ペアワークでは、様々なトピックについて相手に1～2分間のスピーチをするといったように、英語で話す練習をたくさん行った。それによって、自分の英語力が認識できたり、英語で考えて英語で話すのに慣れたりすることができたと思う。また、この授業の課題で、「アメリカの教育について」アメリカ人にインタビューするというものがあり、私はサンディエゴ州立大学の生徒にインタビューを行った。見ず知らずのアメリカ人に英語で質問することにはとても緊張したが、やってみると意外と怖いものではなく英語で話せる楽しさの方が大きかった。そして見知らぬ私のインタビューに答えてくれる生徒が何人もいて、アメリカ人の優しさも感じることができ、非常に良い経験だったと思っている。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500字程度)

「Grammar」の授業では、時制の単元を学習した。「現在形」、「現在進行形」、「過去形」、「過去進行形」、「現在完了形」、「現在完了進行形」の違いをネイティブはどう使い分けているのかを知ることが出来た。今までは会話の中で現在形、過去形といったシンプルな文法を多く使って話していたが、この微妙なニュアンスの違いを学べたことで、これからは自分がより伝えたい感情や気持ち、状況などを表現できるようになったと感じる。

「US Culture, Vocabulary, & Pronunciation」では、アメリカ人の持つ3つの価値観について学んだ。自立、競争、勤勉さである。それを作り上げるものとして、個人の自由、平等な機会、物質的な富がある。まず、アメリカは自由な国で、建国時に市民は宗教や貴族、政府などに支配されるのではなく、自分たちで生きたいと思うようになった。しかし、自由を獲得するためには、誰かに頼るのではなく自立して生きなければならないというリスクが伴う。よって、アメリカ人は自立の意識が高い。次に、競争についてである。アメリカでは、挑戦して勝利するという権利は誰もが持っているべきであり、それは人種や宗教、社会的地位によって決められるものではないと考えられている。この機会の平等から、競争も増え、これもアメリカ人の大切な価値観となった。このように、アメリカで生活していく上で、彼らがどのような価値観を持っているのかというのはとても重要な観点だと思うし、日本との価値観の違いを学ぶことも面白く、勉強になった。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように(気持ちなどが)変化したか。(400字程度)

「Communication Practice」の課題で現地の学生に話しかけたことで、知らない人と英語で話すハードルが低くなったし、話したい、伝えたいという意欲があれば多少文法が間違っていたり、話すスピードが遅かったりしても、きちんとコミュニケーションが取れるのだと学んだ。まずは頑張って話してみるということが英語の上達の上で重要なのだと思う。

また、クラスの半分以上が別の国から来た留学生だったため、日常的に英語で会話していた。今まで英語で会話するときは授業や課題、試験のためだったが、単純に「相手のことを知る」という意味で、「お昼何食べたの」、「今日放課後何するの」、「この課題もうやった」といった日常的な会話ができることが良かった。授業の中でも、分からないことを英語で他の留学生に聞くなど、英語自体を学ぶことだけではなく、英語を使って何かをするという「ツールとしての英語」を実際に経験できた。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300字程度)

この留学を通じて、特に会話力が上がった。日本では英語を話す機会が少ないため、留学中に得たスキルが下がってしまうのが心配ではあるが、コミュニケーションアワーに参加したり、留学先のホストファミリーと定期的に連絡を取り続けたりして、英語力を下げないようにしたい。また、私は特にリーディングが苦手なので、日常的に英語で本を読むなどして、全体的な英語力の向上を目指したい。そして、英語力を挙げたうえで、将来的に、私は英語を使って何をしたいのかということを考えながら大学生活を送っていこうと考えている。

YCU 夏季短期語学研修 派遣学生報告書

氏名	S.H.	学部・学科	理学部・理学科
学年	4	派遣国	アメリカ
派遣大学	サンディエゴ州立大学		
プログラム名	夏季短期語学留学		
期間	2024年 8月 15日～ 2024年 9月 15日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

アメリカのフォーマルなメールの書き方の授業と、アメリカの歴史についての文章を読み、グループでディスカッションした授業が印象に残っている。フォーマルなメールの書き方についての授業では、導入、結論の定型文の勉強から、カジュアルな文法、フォーマルな文法の違いについて学んだ。また、分の内容を自分で考え、実際に文字に起こすことで、自分の文法の知識不足を知ることができた。また、グループディスカッションでは、先生から出される問題についてグループ内で話し合い、答えを考えるとという単純なものや、英語で自分の意見や他のメンバーの意見を聞く必要があったため、始めはなれずに苦労していたが、段々と自分の意見を言えるようになった。テストでは、フォーマルな形式で書くことはできたが、文章がカジュアルになってしまったため、高得点を取ることができなかった。アメリカの歴史の授業では、アメリカが如何にして国家を作り、今のような大国になったのかを、多様性や自立をキーワードに学んだ。授業内容としては、グループ内で一段落ごとに文章を読み、その段落のサマリーについて話し合い、1文で段落を説明するという内容だった。授業内では、アメリカの植民地時代の話から、なぜアメリカでは自立することが重要であるのか、他の国との明確な違いについて話し合い学んだ。また、このリーディングの授業内で、わからない単語について、英語で説明するという時間があり、柔軟に説明しなければいけなかったことで、単語を英語で説明することが自分にとって一番英語のスピーキングの練習になったと感じた。一般的な授業は月曜日から木曜日に行われ、金曜日は、クラスレベル関係なく2つのグループに分けられ、ケーキ作りやワークアウトなどのアクティビティを行った。毎週グループのメンバーが変わり、即興劇やバターづくりなど、日本にはないコミュニケーション授業を行い、英語の勉強以上に多国籍の留学生と仲良くなることができた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500字程度)

アメリカの成り立ちと、文化についてまなぶことができた。アメリカは、ヨーロッパの様々な国が植民地として支配しており。そのヨーロッパの人々は、自国の貴族国家を嫌いアメリカにわたってきた人が多くいた。その人々が結束し、貴族のない平等な社会を目指した結果、今のアメリカが生まれ、様々な人種や信仰をもつ人が暮らす国となった。また、アメリカは競争を重んじ、競争することで人は成長し、学ぶという考えが多くの人に広まっている。このような考えは日本にも取り入れるべきではないかと私は思った。コミュニケーションの授業では、レストランや、道を尋ねる時の正しいコミュニケーションを学んだ。左に曲がる、まっすぐ進むといったシンプルなものだけでなく、どの建物の近くにある、この建物とこの建物の間に位置しているなど、細かい内容まで、実際に趣味レーションをすることで学ぶことができた。この授業で一番印象に残っているのは、二人人ペアになって劇をするという授業だ、即興で考なくてはならないため、実際のレストランでの会話よりも緊張感のあるコミュニケーションをとることができた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように(気持ちなどが)変化したか。(400字程度)

始めは、日本の授業のように先生から学び、その知識を自分で覚えるものを想像していたのですが、授業の仕方が全く異なっていたため、大変驚きました。先生から教わるたびにグループで話し合い、わからないことがあればその場で質問することで先生もすぐに対応し、わからない時にベストの対応が来るという理想的な環境だなという印象でした。授業を受けた後は、授業中に自分の意見を作ることを、また、その意見を英語で説明することを心掛けて行い、グループの輪から外れないように努力しました。その結果、意見を言うことでさらにその意見の深堀が始まり自分の意見と他の意見について話し合うことでいい答えを探ることができました。気持ちの面では、自分のチャレンジ精神を鍛える必要があると感じた。何も考えなくても授業は進み、点数も取れる授業だったため、つらくはなかったが、授業に出る意味を感じないと思ったので積極的なコミュニケーションが授業内でも大切だと感じた。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300字程度)

授業を通して、知識を得ること以上に、他のメンバーや先生と意見を交わせ、コミュニケーションをとることが重要だということを知った。リーディング、ライティング、全ての授業において授業内でディスカッションの時間が設けられ、自分の意見を発現する機会があった。そうすることで、知識以上に様々な人の考え方や、自分一人じゃ思いつかないようなことを学ぶことができ、とても刺激になった。今後の学生生活や社会人になった後も人とのコミュニケーションをとることを忘れず、自分だけでなく、相手にもプラスとなるような経験を多くしていきたいと考えている。